この度の衆院選は平和ボケした日本人の呑気さ、人権意識の低さを見せつけられる酷い結果となりました。原発事故の被災者となり、危機感を持つことのできない国民性こそが問題解決を阻む要因だと痛感している私にとって、2024 年 12 月 3 日夜、韓国の尹（ゆん）大統領が突如戒厳令を宣言した際の市民たちの反応は大きな驚きでした。多くの民衆が封鎖された国会前に集まり、軍隊の国会への侵入を阻止するために抵抗をしました。戒厳令の宣言から約 6 時間後には議会の過半数を占める野党「共に民主党」が主導し戒厳令を解除する投票を行い、集まった議員の全員一致で戒厳令の解除が議決されました。こんなの日本では絶対あり得ない、、、。原発事故の被災者となり、日本が人権後進国だと知った私たちは韓国の民主化の歴史を学ぶ必要がある、という思いで韓国を訪れました。

キム・ヨンギ弁護士、キム・ソギョン弁護士との面談のチャンスをいただき、通訳のキム・ポンニョさんのご協力のもと、短い時間ではありましたが戒厳令の宣言から解除に至るまでの経緯や真相を含め、人権侵害を受け続けてきた韓国の人々が長い歴史の中で築いてきた抵抗の力が今現在もしっかりと根付いていることを伺いました。キム・ヨンギ弁護士がそれを誇らしそうに話されているのがとてもうらやましいなと感じたのですが、原子力に関しては違うのだともおっしゃっていました。

日本の多くの科学者たちは原発事故を過小評価していて、「健康への影響は大したことはない」と言っている。命を守る職業の医者たちも同様で、専門外の科学者や医者たちが必死で抗っているが、それはほんの少数だという実情を通訳のポンニョさんに伝えると、「韓国はそれ以下だ」とおっしゃっていました。やはり、原子力に関する問題は多くの社会問題の中でもハードルの高い、人権を主張するのが困難な問題なのだろうと、その厳しさを感じました。

私は日本で起きた原発事故が世界にはどのように伝わっているのかを知りたいとも思っていて、これまで機会があれば海外の方に伺ってきました。日本国内ではどうかといえば、膨大な国家予算を投じた大プロパガンダ、安心安全 PR 事業が大成功し、原発事故はすっかり過去のこと、事故は起こったけれどさほどの被害はなかったかのような印象を持たれているように感じます。もっと言えば被災地も同様で、実害はなかった、風評被害だと言わなければ復興が進まない苦しさの中、被曝防護は経済復興の対局に位置付けられ、権利の主張はとても困難です。しかし、資本主義社会の国においてはどこで起こったとしても同じようになるのではないかと私は思っていて、だからこそ市民が政治のあり方を監視する力を持たなければならないのだと、国境を越えた市民同士の問題共有の必要性を感じています。

はっぴーあいらんどネットワークは演劇で原発事故の問題を伝えるという取り組みもしています。福島県は自由民権運動発祥の地で、明治初期に「東の福島」と称されるほど全

国有数の盛んな地域であったということ、その地で原発事故が起こったということを2018年に「天福ノ島」というお芝居で伝えました。中央政府に抑圧され苦しみを強いられる中、自由を手に入れるために若き民権家たちが自由民権運動を学び「人権はひとりひとりの中にある」と民衆に訴え、命をかけて戦った歴史があることは福島県民としての誇りです。劇中の「未来は変わるのだろうか」という若き民権家の問いかけは今も私の胸の中にあり、その思いをつないでいくために何ができるかと考え続けています。大きな権力に依存せず、ひとりひとりが主体となって社会をつくっていけることを心から願っています。